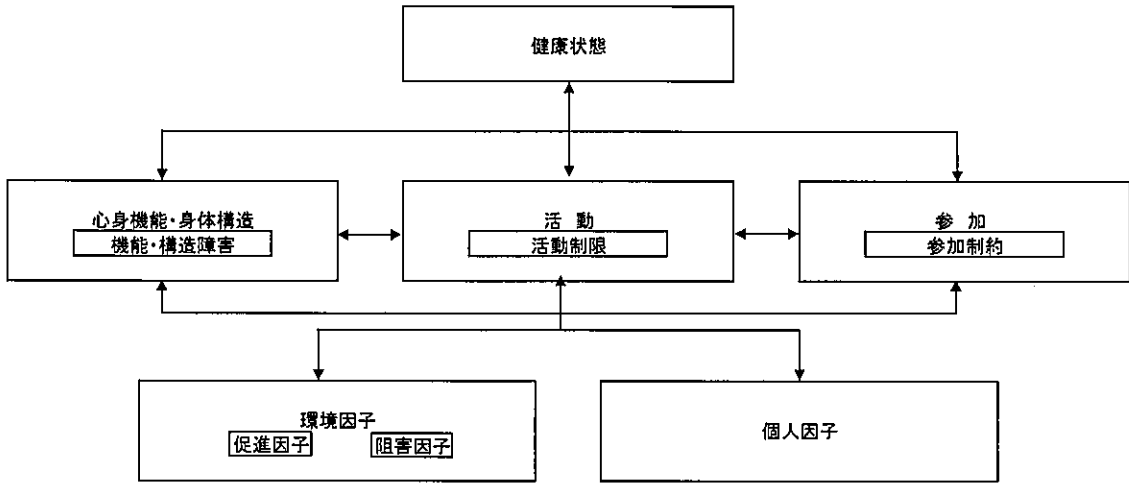
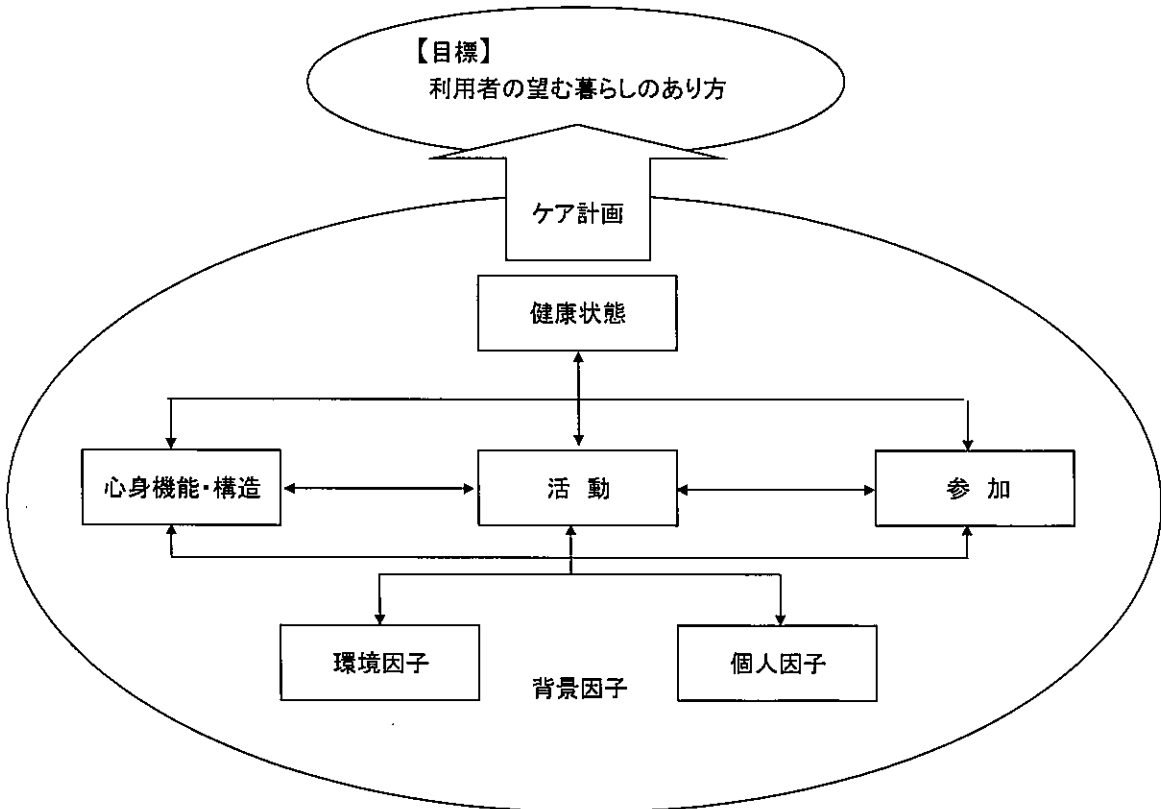


ICF: 国際生活機能分類の考え方を発展させた生活機能と障害のモデル



資料: 財団法人長寿社会開発センター発行 介護支援専門員基本テキスト(上田敏「リハビリテーションの思想(第2版)」医学書院2001年

ケア計画と援助の目標の関係



資料: 財団法人長寿社会開発センター発行 介護支援専門員実務研修テキスト

## ICFにおける用語の変化（マイナスからプラスへ）

ICIDH(1980)	ICF(2001)
機能障害(形態障害を含む) →	心身機能・身体構造 Body Functions & Structure ※ そこに生じた問題は機能障害(構造障害を含む)
能力障害 →	活動 Activity ※ そこに生じた問題は活動制限
社会的不利 →	参加 Participation ※ そこに生じた問題は参加制限

## 生活機能・障害の各レベルの定義

### 健康との関連において

心身機能(body functions)とは、身体系の生理的機能(心理的機能を含む)である。

身体構造(body structures)とは、器官・肢体とその構成部分などの、身体解剖学的部分である。

機能障害(構造障害含む)(impairments)とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

活動(activity)とは、課題や行為の個人による遂行のことである

参加(participations)とは生活・人生場面(life situation)への関わりのことである。

活動制限(activity limitations)とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。

参加制約(participation restrictions)とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである

個人因子(personal factors)とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、性別、年齢、ライフスタイル、価値観などのことである。

環境因子(environmental factors)とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。

## 生活機能の階層構造

### 心身機能・身体構造 生物レベル (生命レベル)

※ 体の働きや精神の働き、また体の一部分の構造のこと。  
それに問題が起こった状態は機能障害(例えば手足の麻痺、関節の拘縮)と構造障害(例えば手足の一部の切断など)。

### 活動 個人レベル (生活レベル)

※ 生きていくのに役立つ様々な行為のこと。  
目的をもったひとまとまりをなした行為であり、日常生活行為(ADL)から家事、人との交際、趣味など多くのものを含む。  
それらが困難になった状態が活動制限。

### 参加 社会レベル (人生レベル)

社会的な出来事に関与したり、役割を果たすこと。  
例えば主婦の役割、親や祖父母としての役割、地域社会(町内会や交友関係)のなかでの役割、その他いろいろな社会参加。  
それらが困難になった状態が参加制約。